

科目名 Course Name	心理学と心理的支援 Psychology and Mental Support			ナンバリング No.	I1-008		
年次	1年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	秋山 真奈美						
連絡先(質問等)	講義棟3階研究室か、C-Learning で対応。オフィスアワーは火・土・授業・会議時間を除くものとする。						
必修/選択	選択(社会福祉士必修)						
関連 DP	DP2,DP5						
授業の概要と到達目標	<p>人を援助するには、日常的に生じてくる「こころ」の現象を、客観的に理解することが求められる。その視点は、決して共感的姿勢に矛盾するものではない。本講義では、社会的動物である人間の「こころ」のしくみを、社会環境との関連に注目しながら理論的に解説するとともに、具体的な支援の方法を紹介する。支援を必要としている対象が何を求めているかを適宜理解する視点を体得して欲しい。</p> <p>そこで心理学における基本的な考え方や心理的支援に関する技法を紹介するので、これらを</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①社会生活および自他の理解を深めるのに利用できるようにする。</li> <li>②支援者としてのスキルアップの一助とすることができるようにする。</li> <li>③支援の理論的根拠として説明・記述できるようにする。</li> </ol>						
授業の方法	<p>視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて進行する。単元の終了ごとに小テストを行う。学期末に論述試験を実施する。好ましい論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。「心理的支援の実際」の単元ではワークとディスカッションを行い、人間の心理的変容の過程をアクティブ・ラーニングする。</p>						
学習成果	L01						
	L02	<ol style="list-style-type: none"> <li>①社会福祉士に要求される心理学の基礎知識と、心理療法の専門的・理論的背景を説明することができる。</li> <li>②支援を必要とする対象が何を求めているかを適宜理解する視点と、心理的支援技法とを身につけることができる。</li> </ol>					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	<p>小テストは実施翌週に返却する。学生はその問題をヒントに期末考査の論述試験対策を行う。自発的学習者には随時模擬論述の添削を行う(ただし第15週まで)。</p>						
教科書/参考図書	<p>教科書:『心理学と心理的支援』社会福祉士養成講座編集委員会〔編〕中央法規。 参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。</p>						
履修上の留意点やルール等	<p>私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は授業参加態度において減点の対象とする。事前・事後学習時間の目安は各回180分相当とする。期末考査においては自筆ノートの持ち込みを許可するので、指定された事前事後学習を熟しておくことで相当に有利となる。</p>						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。演習での積極性は高く評価する。		15		
レポート／作品	「社会福祉現場における心理的支援について」、第15回授業に提出。社会福祉に携わる者としての自覚はもちろんのこと、視点にオリジナリティとバランスの良さがあることを期待する。		40		
発表					
小テスト	単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施する。日常の努力点として勘案する。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。		5		
試験	論述試験を実施する。授業目標①～③が反映された、設問への適切な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。		40		
その他					
<b>合 計</b>			100		

回数		授業計画
1	授業内容	オリエンテーション:心理学の視点 人を理解する手段としての心理学 心理職「こころ」の存在へのアプローチ 心理学の誕生と発展 社会福祉実践と心理学
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、他専門教科と心理学との関連性をマッピングする。
2	授業内容	パーソナリティ:類型論と特性論 心理学的アセスメントの実際(発達検査 知能検査他) 個人差の考え方
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、授業内で行った簡易心理テストの結果を自己分析する。また、次回小テストに備える。
3	授業内容	感情:感情のしくみと機能 情動と生体反応 感情の発達 認知や記憶に及ぼす情動の影響
	事前・事後学習	事前学習として感情が原因の失敗経験を挙げておく。事後学習として、それらの経験に対しどのような対処が有効であるかを分析する。また、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
4	授業内容	欲求と動機づけ:欲求階層説 動機づけと行動 欲求不満と葛藤 適応と不適応 悩むということ
	事前・事後学習	自分がどういう場面で欲求不満を感じ易いかを事前に点検しておく。事後学習として、授業で得た知識を参考にしながら、自分の場合は欲求不満耐性を培うのにはどのような方法が有効であるかを分析する。また、適応機制のそれぞれに対し、身近な実例をノートに挙げる。小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
5	授業内容	感覚・知覚・認知:情報処理の生理学的しくみ 刺激と感覚 注意 認知地図 認知バイアス
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
6	授業内容	脳とこころ:遺伝の影響 脳の構造 記憶のしくみ 記憶の役割 忘却 思考 加齢と記憶力の関係性
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
7	授業内容	学習:条件づけ 観察学習 洞察 馴化と鋭敏化 行動療法
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
8	授業内容	人間環境と集団:対人認知と対人行動 自己開示・自己呈示と適応 集団社会で起こる様々な現象
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、周囲の人に適切な自己呈示を試してみる。また、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
9	授業内容	人間環境と集団:集団が個人に及ぼす影響 集団ダイナミクス ソシオメトリー ソーシャル・サポート 福祉現場の人間関係
	事前・事後学習	事前学習として個人行動場面と集団行動場面での自分の行動の相違をノートに挙げ、事後学習としてその現象がどのような心理学的メカニズムによって発生したのかを考察する。さらに、福祉現場の人間関係の特異性をまとめる。
10	授業内容	心理療法:来談者中心療法 学習理論と行動療法 精神分析療法 遊戯療法 心理劇とロールプレイング 家族療法 支持的精神療法
	事前・事後学習	各心理療法の特徴や相違を表表する。
11	授業内容	生涯発達:発達とは ライフステージと発達課題 アイデンティティの発達変容
	事前・事後学習	人生 100 年時代の自分の人生イメージを図示してみる。

12	<b>授業内容</b>	生涯発達:アドラー心理学的アプローチ レジリエンス
	<b>事前・事後学習</b>	アドラー心理学的アプローチを基に、他者とのコミュニケーションのあり方を見直し、実践してみる。
13	<b>授業内容</b>	こころの発達の基盤:愛着と信頼感 ソーシャルワークにおける心理的支援 社会的技能訓練法
	<b>事前・事後学習</b>	心理的支援を念頭に、他者とのコミュニケーションのあり方を見直し、実践してみる。
14	<b>授業内容</b>	適応と不適応:健康とは ストレス理論 ストレス・マネジメント 適応と不適応のはざま 依存症
	<b>事前・事後学習</b>	日常生活におけるストレス場面を想定すると共に、生活習慣や行動パターンを見直す。
15	<b>授業内容</b>	心理学と心理的支援:心理療法による見守りと介入 ソーシャルワーカーに求められるもの
	<b>事前・事後学習</b>	この授業全てを振り返り、期末考査に備える。